

異業種人材育成研修 ～地域課題解決プロジェクト～

第1期（H26）提案内容

チーム	テーマ	内容	具体的提案内容
A	冬の観光	写真をテーマにした冬の観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・若者や一般の観光客をターゲットにしたライトアップ実施 ・写真を趣味にしている方を対象にしたナイトフォトツアーの実施 ・セミプロや写真愛好家の集う、美瑛フォトベースの開設
B	観光客の増加	「美瑛パッチワークプロジェクト」観光客の滞在時間延長と冬季の誘客	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングを行いやすい環境をつくり、サイクルツーリズムを促す「美瑛ラクラライド」 ・女性をターゲットにした冬の魅力発信と観光客のマナー啓発「美瑛 女流写真部」 ・美瑛ならではの観光周遊バス「美瑛パッチワークバス」
C	交流人口の増加	「TRY（トライ）アングル横丁」交流を柱とした町内活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・町内業者や高校生が出展する飲食マルシェの開催 ・農家による軽トラ市の開催 ・木育ブースなど子供の遊び場を提供 <p style="text-align: right;">} この取り組みを実施する横丁の形成</p>
D	農家と観光客をつなぐ	「丘の上 BBQ」農家と観光客の交流によるより良い関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の圃場での収穫体験を行い、その収穫物を含めたオール美瑛産野菜でのバーベキューを農家と一緒に実施。そこから観光客との相互理解等を深め、より良い関係性の構築と美瑛産食材のPRを行う。
E	美瑛の農業を守るために	「美農プロジェクト」就農のハードルを下げるとともに人手不足を解消	<ul style="list-style-type: none"> ・今後発生するであろう農家の人手不足（出面さんの高齢化）を解消するため、就農希望を持つ人を派遣する仕組みの構築。（プ子農家） ・就農希望者の研修⇒就農までつなげる組織をつくり、その組織自体で農地や農機等を保有。リース等の実施により、新規就農のハードルを下げ、最終的に独立してもらう。（プレ農家⇒自営農家）
F	高校教育	「美瑛学」カリキュラム 美瑛ならではの高校教育の実現による魅力ある美瑛高校の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力（地域資源）を探究・経験するフィールドワークのカリキュラムを北大との連携などにより構築し、美瑛町について自ら学ぶ体制を整える。 ・上記の活動で得た情報をスマートフォンなどによって情報発信する カリキュラムも同時に行うことで、自ら考え発信する力を身に付け、自信をつける教育の実現を図る。

異業種人材育成研修 ～地域課題解決プロジェクト～

第2期（H27）提案内容

チーム	テーマ	内容	具体的提案内容
A	介護予防・生きがいづくり	「温もりの丘びえい」保養センターを活用した 高齢者交流活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・保養センター内各スペースの有効活用（足湯、サークル活動、シアター） ・タクシー会社との委託契約によるへき地からの移動手段確保 ・会員カード作成による見守りシステムの構築
B	子育て支援	「縁」JOYプロジェクト」新たな子育てサポートの 仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ・縁JOYクラブ（ポイントサービスによる子育ての輪を育むシステムづくり） ・子育て世代・地域住民をつなげる交流イベント、ワークショップ開催 ・縁ジョイプロジェクトの情報発信
C	冬の観光	「冬の美瑛、週末のシンデレラ体験」 美瑛の冬の新たな情報発信による観光客の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram活用によるモニターツアー ・冬の美瑛の特設ページ開設による情報発信 ・冬の食材による新メニュー開発（ジビエ料理）
			20～30代の女性にプロモーション
D	農業の魅力向上	「美瑛農家セレブ化計画」 美瑛野菜の認知度向上・ブランディングによる消費拡大・価値向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 美瑛に訪れた方々を持続的な美瑛ファンにする <ul style="list-style-type: none"> ・スマホアプリを活用したスタンプラリーの実施→食（美瑛野菜）→情報発信→美瑛野菜の購買 2 美瑛未体験の人にも美瑛の良さを知ってもらう <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛野菜を知人に薦めてもらう ・テレビを通じ、美瑛野菜のブランディングを図る
E	農業活性化	「ベジタブルプレゼント（ベジブレ）」 新たな収穫体験による美瑛ファンの増加。農産物の付加価値向上	<p>自分で収穫をした野菜を贈答品として送る仕組みをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験 ・収穫した野菜をラッピングし、贈答する。 ・体験者本人の思い出づくり及び農家の思いの共有 ・贈答された方への美瑛産野菜のPR

異業種人材育成研修 ～地域課題解決プロジェクト～

第3期（H28）提案内容

チーム	テーマ	内容	具体的提案内容
A	冬の観光	「青地巡礼」青をテーマにした冬の町内観光ツアーの開発	・「青」をテーマに、スポット観光（青い池、ブルーリバー等）や体験活動を実施して美瑛を巡るツアーを実施。朝～夜のツアーとすることで宿泊者数の増加と美瑛のファン増加を図る。バスツアーとすることで2次交通問題等にも対応する。
B	介護予防	「美瑛みらい倶楽部」小中学校の総合学習の時間へのシニア世代の授業参加による介護予防	・小中学生と一緒に元気なシニア層が授業を受ける機会を作り、多世代 交流機会の創出をするとともに介護予防の機会とする。一緒に歴史やジオ、防災など学ぶことで郷土愛を育むとともに、I Tの利活用と一緒に学ぶことでシニア層のI T利用の推進も期待できる。複数年計画での実施により、生きがいづくりも目指す。
C	冬の観光	「光のパッチワーク」観光客参加型の冬のライトアップ企画	・町内での買い物や宿泊等の際にLEDライトを配布し、指定された場所（ビルケの森、ラヴニール前等）に観光客自らが埋める。雪に埋めた無数のライトにより花畑のような幻想的な風景が生み出される。夜に美しく見えるようになるため、必然的に町内滞在が増え宿泊者増加も期待される。
D	美瑛駅周辺の活性化	「美瑛駅前周辺元気化計画」意見交換会により選定した業態の飲食店を誘致、開業につなぐ	・町民参加の意見交換会を開催し、町が駅前周辺に求める飲食店像を絞り込み、それに合致する業態の開業希望者を探す。並行して物件の準備や支援体制の整備を進め、駅前周辺での開業がスムーズに行えるようにする。
E	冬の観光	「新しい技術を活用したPRによる冬の魅力発信」ドローンを活用した新たな手法での冬の魅力PRによる観光振興	・町で購入したドローンを活用した冬の観光PR映像の作成 ・一般のドローンユーザーが撮影した美瑛町の冬の映像を発信する仕組み作り。（ドローン飛行許可マップの作成による一般ユーザーの呼び込みと一般ユーザーの発信による相乗効果の期待。）

異業種人材育成研修 ～地域課題解決プロジェクト～

第4期（H29）提案内容

チーム	テーマ	内容	具体的提案内容
A	小学校向けプログラミング教育	<ul style="list-style-type: none"> ○今後必要とされるプログラミング教育に対応する地域づくり ○プログラミング支援員 ○プログラミング講座 	<p>2020年学習指導要領改訂に伴って必修化されるプログラミング教育に対する対応策。多忙な教員のサポートのため、プログラミングに特化した支援員として地域おこし協力隊を雇用する。また、企業等による講座を開設し、「食育」や「ドローンでの丘撮影」といった町の独自性を取り入れることでスキルとともに郷土愛なども育む仕組みをつくる。</p>
B	高校の魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ○全国募集型の町立高校 ○フードデザイン学科設置 ○学生寮の設置 	<p>町にとっての美瑛高校存続の重要性から、町の特色を生かした魅力ある高校づくりのため、町の強みである「食」に焦点を当て、地域の食材を生かした商品開発やイベント販売、ネットを活用したマーケティングについて実践を通して学ぶ。</p> <p>生徒を全国から募集する形とするため、学生寮を設置し、レストラン機能も付随させる。</p>
C	中学生のふるさと学習教育	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に愛着を持たせるふるさと学習 ○商品開発（ジュース作り）を通じた人材育成 	<p>地域に残ってもらうためにふるさと学習を実施し、合宿やグループワークを通して、美瑛町の良さを学ぶ。地域素材を生かしたジュースの商品化を内容に組み込み、企画力やマーケティング力を養う。</p>
D	高校の魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ○町営英語塾「美瑛塾」 ○学習支援ツールの導入 ○英語で観光案内 	<p>高校存続を目的とし、英語に重点を置いた町営塾を設置する。英語での観光案内を取り入れることで、美瑛町の地域特性を生かした実践的な学習となり、同時に地域への貢献も果たす。地域おこし協力隊を雇用し、企画・運営を行う。スマホアプリ等も用いて個別学習として補助的なサポートを行う。</p>
E	小学生のコミュニケーション力アップ	<ul style="list-style-type: none"> ○町内全小学校児童通学合宿を実施（4～6年生） ○「あそび」を創る活動を通じたコミュニケーション能力の育成 	<p>限られたコミュニティでの生活から、交流を広げる機会を創出することで、コミュニケーション力を養う。交流の家で全町児童の通学合宿を実施し、「あそび」を創り出すプログラムを取り入れる。その過程で、誰とも関係を築く能力や、考える力を磨く。</p>
F	子供の運動遊び場創出	<ul style="list-style-type: none"> ○公園を活用した「プレイパーク」の創出 ○心身の成長を促進 ○保護者・地域住民との関わり 	<p>「bi.park」公園や森林を活用し、子供たちが自分たちの発想で自由に遊べる空間をつくる。遊具などの決まった遊びだけでなく、アスレチックや工具などリスクに対する経験が持つ価値にも注目し、創造性のあるびのびした遊びができるように運営事務局を主体として憩ヶ森公園や俵真布などに展開し、心身の成長と他者との関わりの機会を設ける。</p>

異業種人材育成研修 ～地域課題解決プロジェクト～

第5期（H30）提案内容

チーム	テーマ	内容	具体的提案内容
A	スマートフォン決済型の募金	観光資源となる農業景観を創り出す農家に対して、観光によるメリットを享受し、デメリットを軽減するため、景観で資金を得て還元することにより農家を応援する仕組みを提案。	「丘」に関連する観光スポットにスマートフォン決済を活用して募金ができるシステムのQRコードを設置し、景観保全に対する募金と応援メッセージを集める。集まった募金は、営農に係る費用への配分、農地を守る施策への投資などにより還元し、観光客が感じた感動や喜びの声を見える化して、直接農家に届けることで、農家と観光客の距離を縮めることにつながる。この一連のサイクルを通して、外国人観光客が美瑛町の応援者となり、募金や賞賛、アイデアを農家に届け、それを受け取った農家の営みにより丘が守られる循環が期待できる。
B	外国人留学生向けインターンシップ	国による言語や文化の違いを正確に「知る」、「伝える」ことに着目。外国人留学生にインターンシップの機会を提供することで、異文化間における情報伝達の架け橋を担う人材を確保する提案。	外国人職員の採用は、在留資格等の関係からハードルが高いため、外国人留学生を対象に、東京事務所を拠点とした通年型のインターンシップを実施する。まずは美瑛町での暮らし体験により町の理解を深め、その期間を通して得た実体験や人とのつながりを情報発信業務に活用し、世界に向けて効果的かつ継続的に美瑛町の魅力を発信する。このインターンシップが継続することで、世界中に美瑛町とのつながりを持った人脈が広がり続けていくことが期待される。
C	VR ガイド付きサイクリングツアー	外国人観光客への対応が追い付いていない中で、より多くの外国人観光客を受け入れるため、効果的な観光客の誘致方法として新たな観光商品を提案。	地図に記載されたVRポイントで現地の異なる季節の風景やその景観に関連する情報（作付けされている野菜の特徴など）を視聴することにより、その地に何度も訪れたような没入感を体感するとともに、地域の理解を深めることで満足度を高める。VR映像は、注意喚起映像を必ず視聴しなければならない構成とし、多言語に対応させることで、効果的なマナー啓発を図る。VRを活用して人手を介さずにガイドを行うことにより、効果的な観光客の誘致が期待できる。
D	KU(健診受けよう)アプリケーションの導入	美瑛町の健康診断受診率が低い状況を課題に、テクノロジーの活用によりK♡U(健診受けよう)運動を推進していく施策を提案。	KU運動普及のためにアプリケーションを導入し、スマートフォンに備え付けられた歩数計の機能と連動したポイント付与や積極的な健康情報の発信により、利用者の健康に対する意識や行動の変容を促す。アプリ導入には、IT企業が自治体に対して人材派遣の支援を行い課題解決に取り組む「CODE for AMERICA」の取り組みを参考に、最先端の技術を地域の関係者が協働して最大限に活用できる体制を整備する。
E	外国人との交流の場の提供	外国人観光客に対する印象は、国際交流の経験の有無によるものと推察し、町民の気持ちの国際化を進める施策を提案。	町民と外国人観光客の濃すぎず、薄すぎない、自然なコミュニケーションが生まれる場を創出する。既存の「丘のまち交流館 bi.yell」を活用し、週に1回、そこに集う方々がともに興味を持つような体験活動を提供するとともに、コミュニケーターを介して町民と外国人観光客の交流を促進することで、町民にとっては新たな体験と出会い、外国人観光客にとっては美瑛町ならではの体験や地元の方々とのふれあいの場とする。
F	小中学生向け異文化コミュニケーション体験	他の地域と比較して圧倒的に交流できる外国人観光客が多い環境を有効に活用して、国際化時代に対応できる人材を育成する取り組みを提案。	音声翻訳技術が向上していることから、語学力ではなくコミュニケーション力に着目。その習得ステップの初期段階である「興味・関心」に注力したプログラムとして、小中学生を対象に、夏休み期間中の3泊4日で体験活動の機会を提供する。大学生の協力により楽しみながら、集大成として観光ガイド等を通して外国人との交流を実践する。国際化が進む現代において、次世代を担う子どもたちの未来を広げることにつながる。

